

Formulation of Agricultural Development Master Plan in the Nacala Corridor
Concept Note に対するコメントおよびその対応

目次

	Page
(1) ProSAVANA の原則	
1) プログラムの目的	1
2) 食料主権	3
3) 2030年マスタープラン目標年の姿	3
4) 実施主体	5
5) 主要アクターの役割	5
(2) 主要テーマに関する ProSAVANA の提案	
1) 直接的な土地管理	6
2) 作物選定、多様化	6
3) 生産性向上の手段	8
4) 自給農業から市場志向型農業への移行	9
5) 対象地域のゾーニング	10
6) 市場へのアクセス	10
7) 個別農民向け金融サービス	10
8) アグリビジネスと地域農家の発展の関係	11
9) Out-grower スキームの適用	11
10) コミュニティおよび農民の土地利用権の保護	12
11) 責任ある農業投資 (RAI)	13
12) 畜産	13
13) ナカラ回廊での雇用の創出	14
14) 競争力と便益	14
15) DPA/SDAE の能力向上	14
(3) 横断的な課題	
1) ジェンダーの平等と青年層対策	14
2) 他プロジェクトなどとの連携	15
(4) マスタープラン策定のプロセスについて	
1) 参加型でインクルーシブな計画策定	15
2) 対象地域外への配慮	15
3) 広報	15
4) 実施の方法	15

項目	コンセプトノートの記載	ステークホルダーの懸念事項	ステークホルダーの懸念事項に対する回答
(1) ProSAVANA の原則			
1) プログラムの目的	<p>Improve the livelihood of habitants of Nacala corridor through inclusive and sustainable agricultural and regional development.</p> <p>ProSAVANA targets all categories of agricultural producers working in the area, by the scale of farming, i.e., small-scale farmer, medium-scale farmer and large-scale farm, by the type of farm management, i.e., individual farmer, farmer's organization and corporate farm, and by gender. (p.1)</p> <p>The targeted beneficiaries through the implementation of the Master Plan are small to medium-scale farmers in the Nacala Corridor. (p.15)</p>	<p>ProSAVANA は、アグリビジネス（大規模農業投資）をベースにした計画と理解する。</p> <p>そうではなく、小規模農家（Family Sector）をターゲットとし、プログラムの全アプローチが小規模農家の開発をもたらすような計画にする必要がある。</p> <p>ProSAVANA では小規模農家の便益のために、どのような取り組みを行うのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ProSAVANA のビジョンは、「インクルーシブかつ持続的な農業及び地域開発を通じて、ナカラ回廊の住民の生計を向上する。」である。 ◆ またProSAVANAは、PEDSA、PNISAで示された農業セクターに関するビジョン「発展的で競争力および持続可能性を持った農業セクター開発により、食料安全保障および栄養改善への持続的な対応が実現できる体制を構築する。また、世界的な農産物市場をターゲットにする」にも整合している。 ◆ ProSAVANAのミッションは、対象19郡に住む地元農家を主な対象者として、「1）農産物の生産性の向上、生産量の増加、多様化の向上のため、地域の農業を改善し近代化を図る。2）農業投資とサプライチェーンの構築によって地域の雇用を創出する」である。 ◆ このミッションは、PEDSAではビジョンを実現するためのミッションである、「社会的かつジェンダー的な平等が保障された競争の元での、食料と栄養の安全保障および農業生産者の収入創出に貢献する」に基づいている。 ◆ ProSAVANAの目的は、「自然及び社会経済環境を考慮するとともに、競争力のある市場志向型の農業／農村／地域開発を目指した新しい農業開発のモデルを構築する」ことである。 <p>本マスタープランでは、2030年を目標に以下のような方策を提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地元コミュニティの生計手段を改善する。 ◆ 現在の家族セクター農業をベースに生産性を安定的に増大させ、食料安全保障に貢献する。 ◆ 農家における農業生産の多様化ならびに商品化用の換金作物導入を通じ、農家の収入を向上させる。 ◆ 農民組織および協同組合の運営能力を強化し、これらの組織による直接的な市場への参入を可能とする。 ◆ 農家の生産を増やす、安定させるための政府機関による研究・普及分野の技術を強化する。このため、1) 広く行われている混作中心の粗放的農法、2) 間作や輪作などの改良農業技術、3) 優良種子、化学肥料や適正農薬

	<p>など投入財の利用も含んだ集約的農法まで、包括的かつ多様な技術体系を調査・研究の対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 農民組織化を通じた農業普及サービスへのアクセス、市場交渉力・競争力の向上や、農村道路整備等による市場への物理的アクセスの改善を推進し、地元農家の収入向上に結び付ける。 ◆ 農民自身による市場開拓努力と合わせて、民間企業と連携したOutgrowerスキームへの参加を通じた市場アクセスの改善と農家収入の向上も検討する。 ◆ 農家が、種子や肥料、農業機械など投入財を使って生産性を上げる選択をした場合の、投入財へのアクセスを改善する。 ◆ 地域農産物の市場形成のため、民間セクターによるサービスプロバイダーや農産物加工業の構築を支援する。 ◆ 用地取得を伴う農業投資事業は、地域住民に利益をもたらす、コミュニティが負の影響を受けない場合のみ実施される。 ◆ 投資によって地元コミュニティが不利益を受けないよう、土地法や環境法の執行に関する行政の実施能力を強化する。ProSAVANAの実施体制の下で、投資事業の監査・評価・モニタリング、および、それら事業の利益を地元コミュニティと適正に配分する方策を提言する、農民組織や市民社会、NGOを含めた第三者委員会を設立する。 ◆ 既存法を執行し、コミュニティに裨益するようその改善を図る。
<p>農業投資は、住民を条件不適切地域に追いやるものなので、政府は地域の住民を守るべきである。 また、アグリビジネスへの投資が実施段階に入った後に、その状況をモニタリングできるようなメカニズムを構築すべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「ナカラ回廊農業開発公社（仮称）」として適切な組織体制を構築し、その「運営委員会」と「ProSAVANAフォーラム（諮問委員会）」に、メンバーとして、学界有識者、市民社会など外部人材も登用することを検討する。同公社は、アグリビジネスを含む事業のモニタリングや評価を通じて事業実施の責任体制を担保し、適切な開発を推進、誘導する役割を負う。 ◆ ProSAVANAは、住民（農民）主権の考えの下、①事業の実施に当たっては地域住民（農民）の叡智、意思を尊重し、②ProSAVANA事業実施に際しては、敬意をもった一連の対話を通じて、地域住民（農民）の活動計画に

			<p>関する意見を適切に反映する、また、③地域住民がナカラ回廊農業開発における対等なパートナーになるための能力向上を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ マスタープランでは農業開発の基本的な方向性、および、開発の目的を達成するために必要な方策・活動をまず提示する。また、策定途上にあるProSAVANAの各要素や事業に関し、それらを実施するための活動計画を詳細に協議する狙いで、市民社会の代表を含むステークホルダーに対し一連のコンサルテーションが行われる。最終的には、コンサルテーションで練り上げられた手続きや提言に沿って、各事業が実施に移される。
	<p>ProSAVANA aims at improving the livelihood of inhabitants of the Nacala Corridor through increase of their household income, by promoting agricultural and regional development with a sustainable nature from the aspects of natural resources and socio-economy. (Concept Note: p.1)</p>	<p>コミュニティの幸福 (Welfare) のためには、生産性の向上を通じた農家収入の向上だけでは不十分であり、総合的なコミュニティ開発のアプローチとすべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域住民の生活の向上は、農業及び関連産業による雇用を通じた収入の安定的な創出と、社会基盤の整備による生活環境の改善によりもたらされるものである。本マスタープランは、営農改善と地域農業及び関連産業の発展による収入の増加を達成するための道筋を示すものとなる。 ◆ 実施の過程での公平性や透明性確保、住民の選択意思の尊重、また教育等の必要性といった点は十分配慮する。 ◆ 教育、保健衛生、医療などの生活環境に関わる社会基盤整備は、モザンビーク政府が力を入れている分野である。 ◆ CSR(企業の社会的責任)もまた、コミュニティの社会基盤整備の一つの資源である。RAI原則の下で、コミュニティと企業が約束したCSRの実施は、確実に行われなければならない。
2) 食料主権	<p>Strategic Crops a. Basic food crops: maize, cassava, beans and groundnuts (p.15)</p>	<p>食料主権は、人々、コミュニティ、国の権利であり、農業・漁業・食料・労働政策は、人々、コミュニティ、国の置かれた状況に、生態学的、社会的、経済的、文化的に適合したものであるべき。この主権には、十分な食料と食料生産の権利も含む。 ProSAVANA は、これを侵すべきではない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域農民の本来有する食料生産の権利、栽培作物を選定する権利は、ProSAVANA の下では保護される。 ◆ 農民個人や農民組織が、決まった食料や改良品種の導入を強要されることはない。 ◆ ProSAVANA が実施されることで、農家は作物の生産性が向上し、余剰生産物の販売が可能になり、新たに換金作物の導入や栽培作物の多様化が可能になる。 ◆ プログラムを通じて、農民の組織化、組織の能力強化が支援される。農家は、この組織活動を通じて、自分達の判断に従って、自分たちの幸福を達成できる能力をつけていく。

<p>3) 2030年マスタープラン目標年の姿</p>	<p>The target year of Master Plan is set at 2030 (CN: p.15)</p> <p>1) Farmers The farmers are expected to improve their own livelihoods through increasing production and productivity in agriculture by applying improved methods and technology in addition to implementing self-sustained economic activities related to the market. In particular, small-scale farmers will change from subsistence farming to sustainable farming and achieve sufficient benefits for development in the future. (p.23)</p>	<p>マスタープラン実施を通じて実現が期待される 2030 年の将来像をまず示し、ProSAVANA の開発ゴールに到達するために、必要な活動を計画すべきである。</p>	<p>現在同様に小規模農家が地域農業の生産主体であり続けるが、マスタープランでは、2030年には、以下のような状態になることを目標とする</p> <p>(1) 2020年までには</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 小・中規模の農家は、普及活動を通じて改良営農技術を適用し生産性を向上させる。適正技術を採用する農家の割合が30%に達すると見込む。 ◆ また契約栽培（Outgrowerスキーム）や農業普及を通じて、農民の組織化や近代的農業技術の普及が進む。 ◆ 農業投資と契約栽培に関して起こり得る争議や対立を仲裁する目的で、市民社会組織や学界有識者らを含む第三者委員会を設置する。この体制の元で、用地取得を伴うような農業投資は、ProSAVANAとしてRAIガイドラインに沿った審査を行い事業が承認されるようになる。また、コミュニティおよび個人農家の土地登記に関する全国的議論を行政が市民社会組織等のステークホルダーを交えて実施し、土地登記の今後の包括的な方向性を決定する。 ◆ 加工や流通などに関する農業投資は、民間セクター（財務基盤が確立した協同組合も含む）が主導・促進する。 <p>(2) 2025年までには</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 一部の先進農家は、集約農業へと移行して主要作物の単位収量を増加させる。また、農産物の共同出荷、農民組織や協同組合との協力等の活動を通じて、地元市場との連携を強めるようになる。 ◆ 先進的な農民組織では、個別農家から農産物を購入して地元市場あるいは仲買人に販売するような経済活動を実施する。多くの小規模農家は、コミュニティおよび農民の土地登記が進むことで、耕作権利が確保され、近代的農業技術の適用を通じて集約的農業への転換を進める。 ◆ 損壊している既存の灌漑施設のリハビリ等も始まり、一部では灌漑農業が実施されていく。 ◆ 行政は、民間投資および契約栽培など民間の活動を、学界有識者や市民社会組織から成る第三者委員会と共同で監視する一方で、品質基準やバリューチェーン開発支援の組織などを立ち上げ、透明性のある市場、バリューチェーン形成を支援できる体制を構築する。 ◆ 民間投資は、生産、加工、販売分野で進み、農民組織や他
-----------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

			<p>企業との連携など農業クラスターの形成が始まるようになる。</p> <p>(3) 2030年までには</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 小・中規模の農家は、普及活動を通じて改良営農技術を適用し生産性を向上させる。適正技術を採用する農家の割合が40%に達すると見込む。 ◆ 集約的農業への移行が進捗した結果として、農家の営農改善、組織化が進んでいる。一部の農家は特定作物への専業化が進むが、多くの農家は食料作物と換金作物をバランスよく生産し、農民組織を通じて地元市場や外部業者と連携しつつ農産物の販売を図るようになる。 ◆ 農民組織の一部は、近代農協へ移行し、周辺からの農産物の買付、販売、加工といったアグリビジネスを実施するようになる。また、一部の農業組織では、民間企業とのパートナー契約を結ぶなど、生産と加工のつながりを強め、様々な農業クラスターが形成されるようになる。 ◆ 行政は、適正な民間企業と生産者のバランスを調整するための機能を、市民社会組織や有識者と共に果たして行くとともに、継続して脆弱な農家やへき地農家などへの農業技術普及など、必要な公的支援を実施していく。
4) 実施主体	記載なし	ProSAVANA は、モザンビーク国およびモザンビークの農家の技術と知見で実施されるべきである。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ProSAVANAはモザンビーク国政府の事業であり、地域の各農家、農民グループ、公共セクター、民間セクター、市民社会NGO、ドナーなど、関係するすべてが、事業の実施主体であり、地域住民が便益を享受する。 ◆ 伝統的な農業技術・形態を尊重しつつ、効果を実証されているものは活用しながら地域の成長を図るものである。 ◆ マスタープランで実施されるプロジェクトや活動は、各農家や農民組織が、自ら何を取り上げるかを決断し、自発的に参加することが前提になる。 ◆ モザンビーク政府が様々な資金ソースを用いてプログラムを実施していくものである。
5) 主要アクターの役割	農家（小・中規模）：開発の主役。特に小規模農家は、自給的農業から市場志向型農業へ移行し、開発の恩恵を享受する。 公共セクター：農家（小・中規	プログラムに係る全アクターの役割を明確にすべき。 公共セクター：立法機関であり、政策の監視者として、最も脆弱性の高いグループを支援し、そのための環境を形成す	<p>マスタープラン実施における各ステークホルダーの役割を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ナカラ回廊地域農業者の大多数が小規模農民であり、小規模農家が生産を向上・多様化させ、発展していくことに重きを置く。

	<p>模)および民間企業が活動できる環境整備</p> <p>市民社会：人材、社会資本開発の基礎的役割を果たす。モニタリングを通じた透明性の確保 開発パートナー：プログラムに参加し、資金的支援を共同で行う。</p>	<p>る。</p> <p>民間（資本）セクター：法に則って財とサービスを提供する。</p> <p>市民社会：自意識および集団利益を育成する。法および開発政策の監督者 家族農業セクター：公共政策の対象者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 小規模農家の生産の増加のためには、農業投入財を取り扱う民間業者が必要になる。 ◆ 同様に、生産拡大と歩調をあわせた市場の拡大や、流通や加工業などの農業関連産業の発展のためには、流通業者や加工業者など民間企業が必要になる。 ◆ 生産者と民間企業の双方の発展を支援するのが、公共セクターの役割である。 ◆ 市民社会は、この公共セクターの活動に、住民の意見を反映するとともに、逆に公共セクターの活動内容を住民に広める活動を支援する。また、第三者として行政の方向性を監視する役割を持つ他、農業投資や契約栽培の適正な実施を監理する第三者として、企業側、農民側双方の監視役となる。 ◆ 農業投資事業では、RAI（責任ある農業投資）ガイドラインに従った投資が実施されるように、ProSAVANA の第三者委員会を設立する。 ◆ 第三者委員会は、農民組織や市民社会、学界の代表を含めたメンバーで設立し、コミュニティコンサルテーションの手続きの監理、企業活動のモニタリングを行い、必要に応じコミュニティ・農民と企業の調停を支援する。
(2) 主要テーマに関する ProSAVANA の提案			
<p>1) 直接的な土地管理</p>	<p>記載なし</p>	<p>ProSAVANA で直接の用地取得があるか？</p> <p>ProSAVANA で農地を開発して、コミュニティや農民に配布するようなことは</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 土地の管理は、モザンビーク政府のしかるべき機関によって行われる。 ◆ ProSAVANA における民間投資は、地域住民（農民）の土地利用権を尊重・保証するための提言・方針に従って行われる。農家やコミュニティが現在不安に感じている土地収奪などの不利益を蒙ることの無いように、ProSAVANA として投資事業の監理体制を構築する。 ◆ 具体的には、土地や投資関連法の行政執行能力の強化と、RAI（責任ある農業投資）ガイドラインに従って開発手続きが実施されるよう、監視、監督する第三者委員会を設立し、手続き監理の透明性を高める。 ◆ 投資によって生じている既存の土地争議に関しても、既存のあるいは新設される法的メカニズムによって、調停・仲裁を行う。 ◆ ProSAVANA の個別事業として農地を開発してコミュニティや農民に配布することはない。政府は、コミュニテ

<p>2) 作物選定、多様化</p> <p>The program aims to improve the diversity of crops (p.2)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Strategic Crops <ul style="list-style-type: none"> a. Basic food crops: maize, cassava, haricot beans, cowpea and groundnuts b. Cash crops: soybeans, potato, vegetables, cashew, cotton and tobacco c. Other considerable crops: sesame, sunflower and tea (p.15) 	<p>あるか？</p> <p>ProSAVANA では、まず食料作物の増産を目指すべき。換金作物栽培の推奨は、食料作物栽培が確保された後にすべき。このための、小規模農家の技術支援、投入財の提供、市場アクセス向上が必要。</p> <p>ProSAVANA の興味は輸出作物、特に日本市場へ輸出するダイズにあるはずである。家族農業の農家は多様な農産物を生産しており、輸出単一作物に変更することの影響が大きい。</p> <p>地域の農家は、モンサント社のような大規模農業企業の遺伝子組み換え種子に頼るように仕向けられる。有機、無機肥料と耐病性の地場種子を使う家族農業を発展させるべき。</p>	<p>あるか？</p> <p>ProSAVANA では、まず食料作物の増産を目指すべき。換金作物栽培の推奨は、食料作物栽培が確保された後にすべき。このための、小規模農家の技術支援、投入財の提供、市場アクセス向上が必要。</p> <p>ProSAVANA の興味は輸出作物、特に日本市場へ輸出するダイズにあるはずである。家族農業の農家は多様な農産物を生産しており、輸出単一作物に変更することの影響が大きい。</p> <p>地域の農家は、モンサント社のような大規模農業企業の遺伝子組み換え種子に頼るように仕向けられる。有機、無機肥料と耐病性の地場種子を使う家族農業を発展させるべき。</p>	<p>イによる農業生産活動を支援する役割を負う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ProSAVANA では、PEDSA、現地での認知度、生産ポテンシャル、価格、地域食料安全保障への寄与、市場の需要を考慮して、優先作物を選定している。 ◆ 基礎的食料作物と、地域の需要が見込める換金性の高い作物を扱っている。 <p><優先作物></p> <p>食料作物:トウモロコシ、キャッサバ、豆類(インゲン、ササゲ)、ラッカセイ</p> <p>換金作物:ダイズ、ジャガイモ、野菜類、カシューナッツ、ワタ、ゴマ、ヒマワリ、チャ、タバコ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ これら優先作物は、今後も、研究や技術普及などの優先的な対象作物になり、地域の農家への技術普及でも、これら作物に関する生産技術が、地域の状況や農家の要望に応じて伝えられることになる。 ◆ 但し、農家が優先作物の栽培を強制されたり、反対にこの作物以外の栽培制限をされたりすることはない。 ◆ どの作物を栽培するかは、農家が主観的に意思決定するものである。 ◆ ProSAVANA-PI では、小規模農家に適合した生産技術の開発を進めている。 ◆ 農業省は、投資事業が食料生産に参加することを推奨する政策・戦略の策定を進めている。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ ダイズは、あくまで食料作物生産と組み合わせる換金作物の一つの選択肢である。 ◆ 農業省は、養鶏業、食品産業および養魚用の需要を満たすためダイズを食料ならびに原料として推奨している。 ◆ ダイズは輪作においても、農家の主要食料作物であるトウモロコシとの相性が良く、トウモロコシの収量増加も期待される。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ GMO (遺伝子組み換え品種) の導入、研究、生産、売買、認証については、これを規制する個別法がモザンビークには存在する。 ◆ PIでIIAMの研究能力が強化され、ナカラ回廊地域の農家に適合した技術開発が進められる。併せて、様々な作物の非GMO品種について、ナカラ回廊への適応性を確認するための試験も行われている。その過程で選抜に残る
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

			<p>品種は、地元の種子販売会社または他のチャンネルを通じて地元農家が入手可能な状態となる。</p>
<p>3) 生産性向上の手段</p>	<p>Increased production of the crops by improving productivity must be an essential precondition (p.8)</p> <p>A new farming strategy, which aims at increasing crop production through improvement soil fertility, is recommended for farmers in the Study area to increase their productivity. The following measures are recommended to facilitate the change.</p> <p>(i) Improvement of individual farmer's land rights (DUAT acquisition)</p> <p>(ii) Provision of incentives to farmers to facilitate the transition from shifting cultivation to settled farming (combined with DUAT acquisition)</p> <p>(iii) Development and dissemination of improved farming technology to support the transition</p> <p>(iv) Increased accessibility to affordable agricultural inputs, especially quality seeds and chemical fertilizers</p> <p>(v) Improvement of a market information system accessible by farmers</p> <p>(vi) Establishment of micro financing/credit systems targeting general farmers</p> <p>(p.15)</p>	<p>小規模農家の生産性向上の手段には、現在の農家の生産技術を考慮した上で、技術と知識の普及活動の強化と投入財の確保が重要である。</p> <p>家族農業が社会的、環境的、経済的に、大規模農業よりも、下記の点で優れている。以下の家族農業を支援する「UNAC 農民支援国家計画」の観点を反映させた、モザンビーク人による持続的農業計画にするべし。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PEDSA が定める生産増大と生産性向上の目標を達成するために、ProSAVANA では、PI ならびに PEM の活動の中でも特に土壌保全と栽培の技術を開発・普及することに重点を置き、小規模農家の生産を増大・安定させるアプローチを提案する。 ◆ このような技術を開発し、普及を通じて農家によるその適用を進めることにより、人口密度が高い地区や農業先進地区などで、自給農業から市場志向型農業への緩やかな移行を推進する。 ◆ 緩やかに移行が行えるよう小規模農家を支援するために以下の対策が実施される。 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 農家の土地利用権（個人 DUAT およびコミュニティ DUAT）の確保 ◇ 保全農業、輪作、間作など、自給農業でも適用可能な技術の研究の推進 ◇ コミュニティへの農業技術普及活動の強化 ◇ 投入財や農機具の購入、生産物出荷、投入財獲得のためのグループ融資に関連した農民組織活動の強化 ◇ 各種プロジェクトを通じた営農技術支援と市場志向型農業移行への意識づくり ◇ 中核農家の育成・強化 ◇ 換金作物（カシューナッツ、チャ）栽培支援 ◇ 農業投入財（特に種子と肥料）へのアクセス強化 ◇ 農業機械サービスの振興 ◇ 農家の市場アクセス、市場情報アクセスの改善 ◇ 農業金融へのアクセス ◆ また、民間企業の CSR リソースを、地域小規模農民の能力強化や社会基盤整備に資する活動に用いることを検討する。 <p>『UNAC 家族農業支援国家計画』の柱とする項目は、ProSAVANA で提唱する重要なアプローチと合致しており、各項目に関連する以下のようなプロジェクトを提案する。</p> <p>1) 地域での種子生産：ナカラ回廊地域での種子生産を振興し、農家が質の良い種子にアクセス出来るように支援する。</p>

		<ol style="list-style-type: none"> 1) 国産種子の生産、 2) 気候変動への適応力強化、 3) 農民の知識、文化、経験をベースとした公的な農業普及体制の整備、 4) 灌漑ポテンシャルの有効活用、 5) 農業生産性を強化するためのインフラの建設及び改修、 6) 農業金融へのアクセスを容易にする効果的なモデルの導入 	<ol style="list-style-type: none"> 2) 気候変動への適応力強化:栽培作物・品種の多様化の振興。 3) 普及体制整備:研究強化、人材育成、女性および若者への支援、トレーニングセンター建設などによる農業普及体制強化 4) 灌漑ポテンシャルの活用:既存の灌漑施設をリハビリし、それらリハビリ施設を利用する農家の灌漑農業および水管理改善の能力を向上する。灌漑施設を建設する技術を向上する。新規灌漑開発の基礎となる水資源調査 5) インフラ建設改修:貯蔵施設のリハビリ。地方道路を整備。 6) 農民が容易にアクセス可能な農業金融モデルの導入:農民組織および個人農家向け金融支援システムを構築。 <p>これ以外にも、農民組織強化等、直接、小規模農家支援に関連するプロジェクトを提案する。</p>
		<p>小規模農家の生産性は土地利用権を確保し、貧困者に対する教育を充実させることでしか向上しない。土地こそが、地方の貧困者の食料安全保障の前提であり、持続的に収入を向上させ社会を安定させるための唯一の資産である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 個別農家とコミュニティによる土地登記の促進に加え、コミュニティの持続的な土地管理の能力の強化と、農家の生産能力強化も合わせて計画する。
		<p>ProSAVANA は、地域の農業の生産性を向上させ生産量を増加させるため、現在の小規模農家中心の農業生産から、企業や中大規模農家を招聘して置き換えるよう提案していると認識している。そうではなく、地元のモザンビーク農業者が計画の中心となるべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ProSAVANA では、地元農家を中心的なターゲットに据えている。民間投資事業は、ProSAVANA の RAI ガイドラインに基づいて実施され、モザンビーク国の現行法制により監督される。このため、農家が不安に思っているような投資に係る問題が発生しないよう、投資のモニタリングおよび監理を担う体制を構築し、家族レベルの農業生産を市場にリンクさせることを可能にする。 ◆ 投資事業は、バリューチェーンの発展や地元農家の投入財へのアクセス向上に貢献する。
<p>4) 自給農業から市場志向型農業への移行</p>	<p>In conclusion, transition from shifting cultivation into settled farming is the main premise of increased productivity... (p.8).</p>	<p>ProSAVANA は何故、小規模農家に対して自給農業から市場志向型農業への移行を促進する必要があるのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 現在支配的である自給農業は、少ない投入で一定の収量を得ることを基本としている。この営農形態は、持続的で簡便な、古くから確立した技術である。 ◆ 投入をしない代わりに、休閑による地力 (soil fertility) 回復によって、持続的な生産を行っているが、農家人口が増えてくると、適切な休閑期間が維持できなくなり、生産システムを持続的に維持できなくなる。 ◆ また、投入を行わないのが前提なので、生産性を向上させる手段も限られてくる。

			<ul style="list-style-type: none"> ◆ 従って、生産性を向上させるためには、自給農業から、市場志向型農業へ移行し、投入財や長期的な土壌改善技術を活用して持続的な土地利用を実施していく必要がある。 ◆ 一方、地域全体で土地利用のバランスを考えた場合、将来的な農家数の増加を考慮すれば、集約農業の振興は、地域の自然環境に負荷をかけない農業の実施のためにも必要な手段である。
	Strengthen the agricultural extension service to expedite the transformation of extensive farming to intensive and market-oriented farming in the Project area (p.16)	市場志向型農業は、段階的な普及員の増加、技術普及強化、組織強化と周辺環境整備と共に行われるべきである。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 農家が意思に沿わない集約農業への移行を強要されることはない。技術の習得、投入財や農機具の入手の周辺環境整備などが合わさって、段階的に移行していくと考えている。
5) 対象地域のゾーニング	Direction of agricultural development ... according to the regional characteristics in the study area (CN: 13, 19)	ゾーニングは、地元で現在実施されている生産を無視した農業企業進出のガイドラインであり、各ゾーンで定める作物栽培を農民に強要するのが裏の目的であると認識している。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ゾーニングは、対象地域の社会経済的特性ならびに農業生態的特性の分析を通じて、各ゾーンの生産ポテンシャルに適合した提言を行うための、重要なツールである。 ◆ この観点から、調査団は、対象地域内の 19 郡の特性を多面的に分析し、6つのゾーンにグループ分けを行った。SWOT 分析を通じて、各ゾーンの農業の開発戦略を示した。
6) 市場へのアクセス	Support for access to market and business development (p.16)	サプライチェーンや流通インフラの未整備により、農村部では生産物の販売先を確保することが困難な状況にある。農家の売り先確保が最重要課題である。	<p>地元農家の市場へのアクセス改善を図るため、以下の活動を提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 既存の中小規模貯蔵施設の改修、および地域の農業活動のためのアクセス道路の整備。 ◆ 農産物市場の創成、拡大に必要な地場の加工・流通産業の発展の推進。市場情報提供システム、中小向け起業支援窓口、中小アグリビジネス企業向け融資制度の推進。 ◆ 農民組織の能力強化、ならびに農家とアグリビジネス企業のパートナーシップ構築を通じて、市場アクセスの向上や交渉力の向上を図る。また、小規模農家にとっての市場確保手段の一つとして、Out-Grower スキームを検討する。 ◆ 民間セクターと農民組織のパートナーシップの促進を計画する。
7) 個別農民向け金融サービス	To establish financial support for small and medium sized enterprises, farmers'	個人・小規模農家が利用可能な（農村部の地域事情に適応した融資条件を備えた）金融サービス・農業融資が必要であ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ アグリビジネス企業または農民組織を通じての、小規模農家がアクセス可能な融資制度の設立を検討する。 ◆ こうした関係性を通じて、小規模農家は、個人またはグ

	organizations (cooperatives and associations), and individual farmers (p.17)	る。	<p>ループの形態で融資システムを利用する能力を向上させることが望まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 個人向け融資は、当初はある程度の農地・栽培規模を持つ農家が対象になる。この個人向け融資においては、マイクロファイナンス機関等と連携することにより、グループ融資や、第三者保証、連帯保証といった仕組みを取り入れることにより、借金を重ね土地を手放すことがないよう各農家の身の丈に合った適切な金融サービスにアクセスしやすい条件を整備する。これらを勘案し、農業融資へのアクセスを向上するため金融支援システムの設立プロジェクトを提案する。
8) アグリビジネスと地域農家の発展の関係	b Development of marketing, distribution and processing industries, and input supply, which leads to increased agricultural products to the economic benefit of farmers, (P.12)	ProSAVANA の実施において、アグリビジネスの地元での育成、発展が必要であり、このために地元の農産加工業を育成する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ マスタープランでは、地元農家が、生産した様々な農産物を地場の農産加工企業へ販売できる機会がより多くなるよう、地場産業と農家を連携させるためのプロジェクトを提案する。 ◆ トウモロコシ、キャッサバ、油糧作物の加工業は、発展が期待できる。
		アグリビジネス（農業生産企業）を適切に監督・モニタリングし、食料安全および食料主権を脅かさないようにする必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 大規模農業投資は、既存の国内法に基づいて、関係するステークホルダーとのコンサルテーションなど適切な手続きを経て、コミュニティの権利を脅かさないよう、実施する必要がある。 ◆ 企業が食料以外の作物を栽培する場合には、用地の一定割合を食料生産に割り当てる義務を課す案が検討されている。 ◆ 上記を、責任を持って監理するため第三者委員会を設置し、投資活動をモニタリングしていく。
9) Out-grower スキームの適用	During recent years, some examples have been found in the Nacala Corridor Area in which an agribusiness company established an out-grower scheme for agricultural production with local small scale farmers. The scheme leads to promotion of improved cultivation techniques by complimenting the insufficient agricultural extension system by	地元農家とアグリビジネスの連携、win-win の関係構築の手段として、契約栽培スキームを ProSAVANA では提示している。しかし、植民地時代の事例からも言えるように、契約栽培を導入すれば、最終的には、立場の弱い農家が土地利用を行う権利を取り上げられる。それを防ぐ対策が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 農家側が不利にならないような適切な条件と運用規則に配慮した契約栽培（Outgrower スキーム）を推進するプロジェクトを検討する。 ◆ 契約栽培を通じて、地元農家は、安定した売り先の確保、高品質の農業投入財の入手、改良栽培技術にアクセスできるようになる。一方、企業側は、初期投資費用の低減、安定した量の生産物の確保を期待している。地元農家と企業の、このような協力関係の構築を促進することは、特に農産加工産業の参入と集積を通じて、生産の拡大と市場アクセスの向上に貢献する。 ◆ リスクの押し付けのような片務的な契約や、不当に安い
		民間セクターとの責任とリスクを公平に分配した正式な、透明性のある契約を基本とすべき。	

	<p>the public sector and ensuring stability to the market. Through the out-grower scheme, local farmers expect benefits on ensuring stable markets, obtaining quality agricultural inputs and acquiring improved cultivation techniques, while the agribusiness company expects benefits on reducing initial investment cost and securing stable amounts of products. (P.10)</p>	<p>民間と農民の契約のモニタリングを行政が担うべき。</p> <p>民間企業とのパートナーシップ締結のためには農民の組織化、既存アソシエーションの協同組合化が必要。</p>	<p>買い取り価格、また、契約不履行など、契約栽培に伴う懸念もある。そこで、農家と民間との契約が適切に実施されるよう、以下のような健全な契約栽培を推進するためのプロジェクトを提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 農民組織、有識者、市民団体等を含めた検討会を通じて、契約書の雛形などを含む、契約栽培事業運営管理ガイドラインを作成する。 ➤ 事業者ガイドラインを配布すると共に、地元農家向け資料も作成し、各郡で農家向け啓蒙活動を実施する。 ➤ 契約栽培において発生し得る争議に対処するための、最初の窓口機関としてSDAE/DPAを位置づける。紛争事案は、ナカラ回廊農業開発公社（仮称）に回送され、そこでしかるべき処理に付される。
<p>10) コミュニティおよび農民の土地利用権の保護</p>	<p>implementation of strengthening project of supervision mechanisms on law enforcement of land and environment (p.18)</p>	<p>ProSAVANA は、「農業セクター開発の戦略的計画 (PEDESA)」の達成に貢献するものと位置付けられており、地域の食の安全保障を確保するために、小規模農家の土地利用権の確保や、農業投資事業による地元農家との土地紛争を防ぐための方策を提示すべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ いかなる農業投資も、土地法・投資法その他の法制が定めるところの規則および基準に従って為されなければならない。ProSAVANAにおいては、この分野を所掌する政府機関の組織力強化を図る。 ◆ ProSAVANAでは、以下の活動の提案を検討している。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ コミュニティならびに在地小農が土地登記 (DUAT 取得) を行う ➤ 土地、環境、その他に係る行政の法執行体制強化 ➤ RAI (責任ある農業投資) ガイドラインの策定と適用
	<p>The following measures are recommended to facilitate the change. (i) Improvement of individual farmer's land rights (DUAT acquisition)</p>	<p>小規模農家に DUAT を与え市場志向型農業を推奨するのは、コミュニティを圧縮し、大規模農業推進のための土地を確保するためである。コンセプトノートで農家人口が増加し、そのための休耕地/移動焼畑が困難になっていると述べているが、大規模農場開発こそが、土地不足の要因になる。</p> <p>土地投資が行われる際に、コミュニティコンサルテーションが不十分であったり、コミュニティに情報が十分に提供されなかったり、コミュニティが情報への対応能力を持たなかったりする等の問</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 土地登記 (DUAT 取得) は大規模農業開発の推進を意図するものではない。土地登記による土地の帰属の明確化により争いが回避可能になり、コミュニティや農家を投資者による土地収奪、強制的な土地収用からも守ることができる。 ◆ 土地の帰属の明確化により、農家およびコミュニティは、生産増大・生産性向上のための投資を行えるようになる。 ◆ ProSAVANAでは、地元コミュニティと個人農家の土地登記を進めるためプロジェクトを提案する。このプロジェクトの初期段階で、まず準備調査を参加型かつ包括的に行う。 ◆ 準備調査で決まった実施計画に基づいて、コミュニティ

		<p>題がある。</p> <p>土地問題を避けるには、コミュニティが投資の全段階に係るべきである。このためにも、現行法に基づき、コミュニティの境界を確定し、コミュニティが自らの天然資源の開発を計画、また、必要であれば、投資家と交渉できるよう、コミュニティの能力向上を行う必要がある。</p>	<p>と個人の土地登記を行う。各コミュニティの土地管理委員会の機能強化など、コミュニティの意思と責任に基づく公正な土地利用が可能となるような支援活動も行われる。コミュニティコンサルテーションの手続きも、第三者委員会などのモニタリング・監視体制の構築によって強化されることが期待される。</p>
		<p>土地問題が発生した際など、明確なTORに基づいて関係者間の調整を行う、市民社会ユニットが含まれるべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 市民社会のProSAVANA事業形成への参加は歓迎されるものであり、プログラムの実施をモニタリング・監視する第三者委員会のメンバーとしての参加を期待する。
11) 責任ある農業投資 (RAI)	<p>In order to repel an invasion of communities rights by agribusiness investment, private investors interested (...) will be requested to comply with the Principles for Responsible Agriculture Investment (RAI) and voluntary guidelines ... (p.18)</p>	<p>どのような体制で強制力が担保され、違反者にはどのような罰則が適用されるのか不明である。</p> <p>元来が脆弱な行政機関を「強化する」ことは非常に困難と認識すべき。投資家はコミュニティとは異なる力学を行使する（地方政府がコミュニティの共益に反して投資家を支持するのもその一例）。コミュニティの権利強化を定めた現行法の、あるべき姿での執行を求める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 策定中の「ProSAVANA 責任ある農業投資ガイドライン」は、FAOのVGGT等と共に、M/P最終化に合わせて広く配布される予定であり、その内容解説や実務上の応用に係るセミナーは「土地と環境に係る行政の法執行体制強化」事業の一活動として実施される。 ◆ 同ガイドラインは、投資企業の自主規制に依るところもあるが、モザンビークの現行法制の遵守を求めるものが大部分であり、その義務に取って代わるものではない。 ◆ 地方政府への不信感をもたらした過去の係争事例などは、M/P策定過程でも調査分析している。 ◆ RAIの実現に当たる政府機関の能力を強化するため、上述の「行政の法執行体制強化事業」他にも、以下を提案する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 農業投資をモニタリングする第三者委員会を市民社会、有識者の参加を得て立ち上げ、投資事業の実施の透明性を高める。 ➢ 現行法規の遵守状況に係る監査能力の強化 ➢ 監督官庁に対する内部監査・外部監査の制度的充実
12) 畜産	<p>livestock in the study area is not popular because the incidence of the tripanosomiasis</p> <p>Chicken has strong potential in the region considering the present condition. There are a lot of fundamental and deep-rooted constraints that impede the engagement of general farmers in livestock breeding (p. 15, 21)</p>	<p>牛やヤギなどを含む既存の畜産生産システムを強化すべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 畜産に関しては、家禽や小型家畜の飼育を推進する。(例;ニワトリ、ヤギ) ◆ 牛・ブタ等の大型家畜飼育は、一部地域を除いて伝統的に盛んでないことから、地域の多くの小規模農家は飼育の経験・技術を有していない。加えて、疾病対応や繁殖等に必要なシステムも整っていない。このため、改良種の導入や草地改良、また疾病対策や繁殖に必要なシステム整備への支援が取られなければ、小規模農家にとって、それらの飼育の経

			<p>済的リスクは大きい。そのため当面、マスタープランの短期計画では積極的に提言しないが、先進的な民間企業が自身で上記リスクを取りながら、集約的な飼育技術の導入を徐々に進めることを期待する。</p>
13) ナカラ回廊での雇用の創出	<p>ProSAVANA defined its mission as being to increase productivity and to increase and diversify agricultural production as well as to create employment. (p.2)</p>	<p>地域の小規模農家が、農業を確立させることで、農村の雇用は確保される。小規模農家にとっては、外国企業の圃場労働者（Labor）として雇用が確保されるよりも、経済的に自立した農家として生活が確保されるほうが望ましい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 小規模農家が成長し、経済的な自立が確立することは、ProSAVANA の目標の一つである。 ◆ 農産加工や流通等の地場農産業を中心とした地域農業の振興による、地域経済の活性化が必要になる。このことが、結果的に地域の雇用機会の創出に繋がる。 ◆ ProSAVANA は、農民および市民社会の懸念に応え、農家が農外収入を得る、あるいは農家の子弟や青年が出身地近郊で就労できるよう意図する。具体的には、地方部で農産加工業や流通業などを含む農産業の促進により雇用機会の創出を意図している。
14) 競争力と便益	<p>ProSAVANA's Objective is "Create new agricultural development models, taking into account the natural environment and socio-economic aspects and seeking market-oriented agricultural/rural/regional development with a competitive edge." (p. 3)</p>	<p>ProSAVANA がいう競争力のある農業とは、結局輸出産品の国際市場での競争力のことであり、輸出用換金作物栽培しか対象としていないのが明らかである。それよりも、生産技術を適用することで、ナカラ回廊地域の家族農業の競争力を高め、その結果としてコミュニティの幸福も達成されるべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ProSAVANA は PEDSA の下で計画・実施される。競争力のある農業とは、市場ニーズに合致した生産の意味である。 ◆ ProSAVANA では小規模農家の農業生産性を高めるため、彼等の抜本的な農業生産技術改善に向けた包括的な対策を講じる。その結果、小規模農家の農業製品の競争力が高まり、市場で販売されることでより多くの収益を得られるようになる。これによって、豊かなコミュニティの形成が促進されることを期待する。
15) DPA/SDAE の能力向上	<p>"There are no official strategies for conservation of watersheds and forests at the provincial level (...) due to the fragility of its implementation and supervision" (p. 11)</p>	<p>農業セクターの行政は実施能力が不足しており、また、組織間の調整能力も十分でない。人材、物品などの量的、また資金的な強化が必要である。既存法規（環境アセス、コミュニティの土地利用権）がきちんと実施される担保が無いので、行政能力を強化すべき。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 水、森林、土地等の資源管理のための行政能力の強化は不可欠である。そのため、土地及び環境法の管理メカニズムの強化のためのプロジェクトを提案する。また、本マスタープランの実施体制の提案でも、これらの点を考慮した案を提案する。 ◆ モ国の行政の予算措置の限界を考慮すると、行政と NGO、市民社会との連携は極めて重要であり、そのメカニズムを提案し、協議してまとめていきたい。
(3) 横断的な課題			
1) ジェンダーの平等と青年層対策	<p>記載なし</p>	<p>農村社会の発展および農業開発における女性問題の取り扱いについて、MINAG の既定方針を準拠すべき。</p>	<p>女性と青年層の開発に関する問題は農業省だけでなく、他省とも関係する分野であるが、ProSAVANA として、農村部における女性および青年グループの活動を支援するプロジェクトを提案する。具体的には、以下のような活動を含む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 組織化のための研修（組織機能、会計、登記、市場情報

			<p>など)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 農業技術訓練 (灌漑野菜栽培や、小型家畜飼育、簡易農産加工など)。 ◆ 農業生産に必要な投入財の提供 ◆ 生活改善 (食料・栄養、育児、衛生、識字など) に関する研修。 ◆ ジェンダーに関する普及活動、研修、意識啓発会合等。 <p>ProSAVANA のミッションの一つは地域部における「雇用の創出」である。これは青年が自分の地域で生活を確立させる／向上させるための助けになる。</p>
2) 他プロジェクトなどとの連携	記載なし	ナカラ回廊で実施されている他のプロジェクトや大学などと、どのように協調していくのか？	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ナカラ回廊農業開発公社を通じて、ナカラ回廊地域の農業開発を、関係機関／プロジェクト、他セクターと協調して実施できる体制構築を提案する。
(4) マスタープラン策定のプロセスについて			
1) 参加型でインクルーシブな計画策定	<p>The Concept Note is prepared for discussion among stakeholders of the Nacala Corridor.</p> <p>The contents of the Concept Note are open for the discussion in order to involve stakeholders in a deeper level in the process of formulation of the master plan. (p.0)</p>	<p>マスタープラン策定は、もっと参加型で実施し、住民の意向を反映すべきである。</p> <p>コンセプトノートは、民間セクターを中心に、これに他のセクターをどう組み込むかという考えに基づいて作成されている。</p> <p>対話のプロセスを通じてでた要素を取り込んだ、家族農業中心のコンセプトノートを作り直す必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ProSAVANA は、これまでも事業形成プロセスにおいて、多様なアクターとマスタープランに関する意見交換を行ってきている。 ◆ 今後も、更に密な対話を郡レベル、州レベル、中央レベルで継続し、意見を集約させて、それを計画に反映させるとともに、ナカラ回廊全域のコミュニティの意向を包含するという手法をとっていく。 ◆ 「コンセプトノート」に関する様々な意見を反映して、マスタープランのコンセプトを修正し、マスタープランドラフト 1 を次回ラウンドのステークホルダーとの協議にて提示する。
2) 対象地域外への配慮	記載なし	対象地域外の郡も、対話集会に参加させるべき	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 指摘頂いたことはどれも重要であると認識しており、ProSAVANA の広報活動を通じて、広い情報提供を実施する。
3) 広報	記載なし	<p>郡で十分に ProSAVANA の情報提供を実施すべき。</p> <p>現地語での広報、パンフレットが必要</p>	
4) 実施の方法		毎月、中央レベル、州レベルで市民社会団体 (環境、女性、青年、等)、民間セクターなどを交えたラウンドテーブル会議を ProSAVANA もしくはモザンビー	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ステークホルダーの意見を聴取する仕組みを設ける。 ◆ マスタープランは各フェーズで見直される。この際にも、ステークホルダーが参加して実施する。

	ク政府主催で開催すべき。	
--	--------------	--